



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2010年6月-7月号

Vol.14

支援者の皆様へ

カオス、混沌、、、「原点」

支援者の皆様、いつも温かいお祈り、ご支援をありがとうございます。3月31日をもって、2年間お世話になった日本国際飢餓対策機構を退職してから現在まで、神田英輔師とともに新しい働き「**声なき者の友**」の輪（F V I）の立ち上げの準備をしまいいりました。何もないところから新しい働きを立ち上げる、という作業は（私のような無知で未熟な者からすると）控えめに言っても「**恐ろしく複雑で大きな仕事**」のように感じています。定款の作成、理事会など組織の仕組みづくり、服務規程、関連する法律、会計管理と監査、活動理念の明確化、具体的な活動内容と戦略、報告責任、事務所（まだ事務所はありません）、収入と支出の見込み、ホームページ、長期、中期、短期の目標設定と達成度を測る指標など、これまで殆ど何も知らなかった数多くの事項について考えなければならず、一時は何も考えることが出来なくなり、2年間毎日更新を続けてきたブログも休まなければならないほどでした。（少なくとも今のところは）非常に小さな非営利の任意団体を立ち上げることですらこれほど大変だとしたら、NPOなどの働きを起業したり、ゼロから教会を開拓したり、個人で事業を創業したりして神の国に貢献している知人や信仰の先輩たちが「超人」のように感じました。

私にとっては「カオス」とも呼べるそのような状況の中、5月24日に神田師と共に米国のアリゾナを訪れました（このレターはアリゾナで執筆しています）。「本当に何も出来ない」という打ちひしがれた想いと混沌を抱えて渡米し、パートナー団体である Disciple Nations Alliance のダロー・ミラー氏、スコット・アレン氏や Harvest 財団のボブ・モフィット氏らと、日本で産声をあげたばかりの F V I のことについて話し合う時間を持ちました。アリゾナでは連日密度の濃い会話をし、全世界での取り組みから学ばされると同時に、日本における全人宣教の適用が他の国々を益する可能性が大いにあることを確信することが出来ました。

Harvest 財団の事務所近くのレストランで、「自分が何も出来ない赤ん坊のように感じ、同時に混乱している」ことを分かち合った私にボブ・モフィット氏がこのように言いました。「**私たちは誰も完全な仕事をする事は出来ないよ。ただ忠実であることが出来るだけだ。俊、赤ん坊がどうやって歩くことを学ぶか知ってるか？歩くことによってだ。何度も失敗するかもしれない。でも、みんなそこから始まる**

んだ。」この言葉は、私をもう一度「原点」へと呼びもどしてくれました。獣医師としての仕事を辞め、現在私がこのような働きに携わっていることに「きっかけ」があるとしたら、その大きな一つは2007年にサン・ディエゴにいるボブ・モフィット氏を訪ねたことでした。ある意味においては、そこで交わした会話、投げかけられた質問の答えが、私を今の場所まで導いたと言うことも出来ます。現在の上司である神田師をボブ・モフィット氏から紹介されたのもその時でした。ただ私の訪問だけのために1週間予定を空けてくれた前回と同様、今回も氏は時間を取ってくださいました。あれから3年が経過し、前回とは経験も立場も違いますが、人生の新しい節目に再びボブ・モフィット氏の前に座っていることに不思議な感覚を抱きました。神田師の存在も非常に大きなものです。これまでの人生で2度「無から働きを立ち上げる」経験を持っている神田師は、経験がなく浅はかな私を温かく指導し、助けてくださっています。神様が与えてくださった出会いによって、混乱の中にあっても今の私は生かされています。

また、皆様の祈りを日々背中に感じ、励まされ、助けられながら進んでいます。私は一人で戦っているのではなく、祈ってくださっている「神の国のチーム」の一員なのだと思いますことによって、何度も励まされました。「原点」に帰ることが出来たから万事うまくいく、という簡単なものではありません。葛藤や混沌やカオス状態はこれからもしばらく続くでしょうし、多くの失敗をするでしょう。皆様にご迷惑をかけることもあるかもしれません。忍耐強く「赤ん坊のチームメイト」のためにお祈りくださり、ご指導、激励をいただけたらこの上ない喜びです。



Harvest 財団オフィス (アリゾナ) にて。5月27日撮影

活動報告

各地での奉仕と活動 (2010年4月～2010年5月)

皆様のお祈りに支えられ、神様の助けによって4月、5月も様々な場所で奉仕させていただきました。お祈りくださった方々と関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。それぞれの教会、グループ、地域において神が引き続き人々を励まし、御国が拡大されていくようお祈りください。

月日	奉仕内容	場所
4月4日	デピュテーション (新団体の説明)	I C B C (愛知)
4月9-10日	ビジョン・カンファレンス	みどり野キリスト教会 (横浜)
4月17-18日	ビジョン・カンファレンス	グレース・コミュニティ (札幌)
4月19-29日	全人宣教研修とフォローアップ	同上
5月5-7日	F V I 祈りのリトリート	万座温泉ホテル (群馬)
5月9日	礼拝説教および全人宣教フォローアップ	南浦和バプテスト教会 (埼玉)
5月16日	セレブレーションにて活動報告	B-One ネットワーク (大阪)
5月24日-6月11日	F V I ネットワーク強化及びリトリート	アメリカ (アリゾナ州他)
継続的に	全人宣教フォローアップと励まし	練馬など国内各地

この 2 カ月の奉仕のハイライトは、グレースコミュニティ（札幌）におけるビジョン・カンファレンスとその後の 2 週間の滞在による学びとフォローアップでした。カンファレンスには約 200 名の方々が参加くださり、神の国のビジョンを受け取り「地域の問題は教会の問題」であることを深いレベルで理解し、神の国の大使として生きることの強い動機づけを受け取っておられることを感じました。益田良一牧師や、ユースパスターの益田結師をはじめ、教会のリーダーの方々が一貫して地域に全人的に宣教することを励まし続けてきたことが感じられる雰囲気はそこにはありました。教会の一人ひとりの全人宣教の「適用」は的を射ていて、それぞれが地域や学校、会社、家庭に神の国のインパクトをもたらすようなものでした。2 週間の学びとフォローアップを通して「手稲区（人口約 14 万人、札幌市の北西部に位置する）に御国が来ますように。」という祈りを教会の方々と共にすることが出来たことは大きな特権でした。20 以上ある「家の教会」（小グループ、セルグループのような集まり）が主体的に実行している地域に仕える宣教活動の全てに教えられ、励まされましたが、特に印象深かったのは、「GCSPORT」と「LOVE SAPPORO PROJECT」でした。

GCSPORT は、若者たちが（競争やいじめのない）安全で健全な環境の中でスポーツを楽しみ、学校の外で新しい友人と出会うという必要のために計画されたスポーツのイベントです。原則として毎週、地域の体育館を借りてフットサル、バスケットボール、バレーボールを楽しみ、未経験者や年齢の低い参加者も楽しめるように工夫されています。累計するとこれまでに 100 名以上の「教会に一度も来たことのない若者」が教会の若者と触れ、神の国の価値観で生きているグループの雰囲気に触れることが出来たこともインパクトのひとつです。



GCSPORT のユースたちと結師。

LOVE SAPPORO PROJECT は、教会の数名の若者たちが自発的に働きかけて実現した地域清掃のプロジェクトです。今年の 4 月に始まったばかりですが、私の滞在中にもゴミ拾いが行われ、私も参加する特権



子供からお年寄りまでが参加して札幌を愛し仕えるプロジェクト

に与りました。日曜の礼拝の後に、子供からお年寄りまでの教会のメンバーたち数十名がグループに分かれて地域に繰り出し、ゴミ拾いをしました。教会の若者たちが軍手や地図やゴミ袋や分別方法を書いた紙などを用意して、「教会が地域に仕えることのために仕え」ている姿を見て、感動を覚えました。

この取り組みがさらに深い地域のニーズに応答し神のご栄光を現す（マタイ 5:16）ものとなっていくように、皆様からもお祈りいただければ幸いです。

日本国内における全人宣教の取り組み（第四回）

「久米島をホーリーアイランドに」【後編】

前号で久米島、希望が丘キリスト教会の方々が実践してくださった「小さな愛の行動」を分かち合わせていただきました。今号では、教会の方々の実践と分かち合いから私自身が学ばせていただいた原則について紹介させていただきます。

「励まし」、「祈り漬け」、「失敗を喜ぶ」

久米島での教会の方々の実践とその後の木下先生との会話を通して学んだことが3つあります。第一は、**励ましの重要性**です。私たち日本人は、至らないところを見つけ、指摘することには長けていますが、手放しで褒め、激励することに関してはあまり得意でないように思います。しかし、自らがチャレンジして行った適用が、毎回欠点を指摘されるような報告会に出続けたいと思う人がいるのでしょうか？手放しで褒め激励する文化は、愛の行動という実が育つための養分の一つなのではないかと思われました。

二番目に、「祈り漬け」という状態を保つ大切さです。愛の行動の各ステップで、「自らの悟りに頼らず、心を尽くして主に抛り頼む（自分の考えでなく、主の方法を祈り求める）」（箴言3:5）ことを私は皆さんに勧めました。久米島の教会の方々はそれ実践してくださいました。比喩的に表現すると、小さな愛の行動は、「祈りに浸されて」いました。そしてそれぞれの実践に、（それが例え小さく見えても）神の御介入の形跡が確認されました。「神の働き」と「人の善行」の間には大きな隔たりがあります。その違いを決定づけるのは、行動する私たちが自らの悟りに頼らず主に抛り頼んでいるかどうか、という点です。

三番目に、**失敗を喜ぶ**という文化を育てる重要性です。一番目の激励とも良く似ていますが、これは報告会の後の木下先生との会話から教えられたことです。木下先生は、「今回のカンファレンスを通して感じたことのひとつは、私は牧師として意識して『うまくいかなかった証』を分かち合う必要がある、ということでした。」と語られました。そうすることで、教会の方々は安心して自分の「チャレンジ」について話し合い、分かち合い、たとえうまくいかなかったとしてもそれを喜ぶことが出来ると先生は考えたからです。愛の行動という実が育つためのもうひとつの養分は、激励に加えて「失敗を喜ぶ」という文化であるかもしれません。

「ビジョンの木」と感謝献金

ひとつの「愛の行動」を実践することと、それを継続することは別のことです。そして言うまでもなく、継続することはひとつの行動よりはるかに困難です。「何かを続けようとしたことがある人」なら、誰もが知っている事です。小さな愛の行動は、継続した時に初めてその可能性を最大限に発揮し、神の国の拡大のための大きなインパクトをもたらします。報告会の後、希望が丘キリスト教会の方々は「この行動を継続していくにはどうしたら良いか」というアイデアを出し合い、話し合ってくださいました。その中で、二つのアイデアがあがりました。この二つのアイデアは今も継続され、実行されています。

ひとつめは「ビジョンの木」というアイデアです。教会の壁に大きな木の絵を貼り、葉っぱの形をした用紙を準備しておきます。ひとつの愛の行動が出来たら匿名でその葉っぱに愛の行動の内容を書き

込み、木に貼り付けて行きます。それらの行動から愛である神様を知り、教会につながるようになった人がいたら、そのたびに今度は木に「実」をつけるようにしていきます。「次に神田先生と陣内さんが教会に来てくださったときに、成長した木をお見せできるように楽しみながら実践していきたいと思います。」と教会の方々は語ってくださいました。下の写真はカンファレンス後約2週間の12月31日に撮影された「ビジョンの木」です。

もうひとつは、教会に貯金箱をひとつ置いておいて、ひとつ「愛の行動」が出来たら100円感謝献金を入れることにする、というものです。たとえば1年の終わりに3万円貯まっていたら、それは12カ月で300個の小さな愛の行動が出来たこととなります。その行動を通して、神がどのような素晴らしい事を地域社会になしてくださったかを考えると、胸が躍ります。教会のある方は「次回はそのようにして貯めたお金で、神田先生と陣内さんを教会にお招きしよう！」と言ってくださいました。

(2010年2月の時点で12,000円の感謝献金が貯まっていた、という報告をいただきました。)

継続するために必要な「グループで励まし合いながら、楽しく」行う、という要件を満たしたこの着想は、私たちに非常に大きな示唆を与えてくれました。「久米島が、神が望まれるようなホーリーアイランドに」近づくように、教会の方々が大いに祝福され用いられるようお願いください。



祈りの課題

- ◇新団体「声なき者の友」の輪（F V I）立ち上げのために必要な神様からの力、知恵、必要な人々からの助けを得ることが出来るように。ゼロからスタートした団体の、経済的必要が満たされるように。
- ◇8月末ごろに予定されているF V Iの創立理事会が、神の願われるものとなるように。話し合われるべきことが話し合われ、働きの礎がキリストのみに根差すように。
- ◇働きや生活を通して、私の内にキリストの似姿が形作られるように。
- ◇日本と世界のキリストの身体なる教会、社会に貢献したいと願うグループならびに個人（教会外の人々も含む）が、「仕えるキリストの姿」を体現し、地域が変革され、神のご栄光が現されることに、F V Iと私の活動の全てが集約されるように。

今後の予定

月日	内容	場所
6月 19-20 日	全人宣教セミナー	伊那福音教会（長野県）
6月 23-25 日	F V I 祈りのリトリート	万座温泉ホテル（群馬）
6月 27 日	中高生礼拝でメッセージ	練馬グレースチャペル（東京）
7月 13-15 日	F V I 祈りのリトリート	万座温泉ホテル（群馬）
7月 25 日	ユース礼拝でメッセージ	練馬バプテスト教会（東京）
8月 9-11 日	JECA 北海道地区 ユースキャンプ	北海道日高地方
8月末頃	F V I 創立理事会	東京
随時継続的に	国内啓発活動、フォローアップ	国内各地

連絡先

〒443-0013 愛知県蒲郡市大塚町伊賀久保 100-2 国際クリスチャンバプテスト教会内 「陣内俊を支える会」

Email shunjinnai1128@yahoo.co.jp ブログ URL : <http://ameblo.jp/shunjinnai-kingdomcome/>

支援のための献金方法

私の活動は、すべて支援者の皆様の支援献金によって行っております。経済的支援にご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ゆうちょ銀行に口座をお持ちの支援者様は、郵便貯金口座から直接振り込んでくださることも可能です（手数料無料）。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-9-1889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
(prayer letter 同封の振込用紙がご利用いただけます。)

* ブログから Prayer Letter をダウンロードくださった方でも、お手数ですが上のいずれかの方法で支援金をお振り込みください。振込用紙がご入り用の方は、必要な枚数と住所、お名前を記載の上、上記連絡先までお知らせください。

* 2カ月に一度、プレイヤーレターに2枚（2か月分）お送りさせていただく振替口座の振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封させていただきますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。

* 郵便貯金からの自動引き落としを利用されたい方は、上記連絡先までお知らせください。必要な資料を送付させていただきます。

* Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。